

連載

日本の観光洞 -37

水島 明夫 (MIZUSHIMA, Akio)
洞穴科学調査会所属 福岡県在住)

愛媛県 Ehime-ken

四国の2回目は、愛媛県です。で、冒頭からスママセン。Caving Journal Vol.2 の日本の観光洞連載第1回のリストでは、愛媛県に観光洞が“49 龍雲鍾乳洞”と“50 穴神鍾乳洞”の2つとしていました。洞窟温泉として取り上げるつもりだった“龍雲鍾乳洞”はずでに使われておらず、49番は欠番に。ところが新しく、そうめん流しで売り出し中の“安森洞”が81番で登録になります。ン〜、1996年のリストはもう無理があるな〜。ナンバーの付け方も甘いし... 難しい。

さて愛媛県といたら、山内 浩、そして鹿島愛彦という日本のケイビング界を作った人たち、そしてあの愛媛大学学術探検部のお膝元、小生がこんな雑文を書いていいのか、悩むところです。鹿島先生の書かれた「すねぐるの愛媛点描」(2003)を参考に頑張ります。

1972年山内・鹿島は愛媛県を7つのブロックに分け101の洞窟を報告している。1987〜1988年鹿島は愛媛の自然第29〜30巻に愛媛県の洞窟を地質帯毎に紹介している。基本的には北東から南西へ帯状に並んでいる。

北部の松山や道後温泉は地質的には香川県と同じ流れになり、西南日本は内帯の領家帯。海食洞がいくつかあるようだが石灰洞はない。

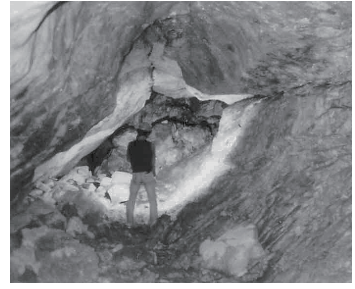
次の三波川帯は変成岩帯なのだが、風穴がいくつかと、石灰質片岩にできた“川辻鍾乳洞”が八幡浜にある。透明な結晶質ストローを見たかったが水源のため入洞できなかった。

そして、いよいよ外帯は秩父層群、穴が最も多いのは高知県との県境の仁淀川流域、そうあの有名な四国



四国カルスト 景観

カルストだ。なお、秋吉台や平尾台のようなカルスト台地を想像してはいけない。レンズ状に石灰岩が分布し、天狗高原や五段城、そして大野ヶ原にかけて尾根沿いに石灰岩が分布するためカルスト地



羅漢穴のボアパッセイジ

形ができているのだ。見事なボアパッセイジの“羅漢穴”、SRT初期の頃D(ダブル)RTで入ったの四国カルスト最深の“龍王洞”、他にも“日浦洞”など、日本のケイビングを語るときに必ず出てくる穴が並ぶ。その秩父帯の肱川沿いに“龍雲鍾乳洞”が観光洞であった。

秩父帯の南側の鳥ノ巣石灰岩に“穴神鍾乳洞”が観光洞だ。さらに南の高知は“龍河洞”の流れの三宝山帯の佛像構造線沿いにも穴がたくさん。“安森洞”をそうめん流しがメインで、一応観光洞とした。

さらに南の四万十帯には石灰岩がなく、宇和島の近くに海食洞があるようだ。そう言えば愛媛県西側の海岸線は、佐田岬を筆頭に実に不思議な景観だと思う。



49. 龍雲鍾乳洞 Ryuuunn-syounyuudou

横穴・全長約40m

<特色>

山の中の小藪温泉にあった穴。建物の中の扉を開けると、そこは自然洞を洞窟風呂にした空間らしい(温泉のおじさんの話)。照明もあり、それこそ裸、特別の装備なしに入れる面白い観光洞のはずでした。現在は倉庫にしているとかで、覗くことすらできなかった。5年の間を開けて2回も行ったんですけどね〜、粘ったんですけどね〜、心の底から残念。

<所在地>

愛媛県大洲市肱川町宇和川小藪温泉 Tel 0893-34-2007

<交通>

バスで行けないこともないが、JR予讃線伊予大洲駅から宇和島バス天神行きで約40分、鹿野川大橋で降りた後は、ひたすら山道。この道で大丈夫?と不安になった頃に到着。ということで、行くなら車。松山自動車道大洲ICから国道197号を南下、鹿野川湖の手前、山道を西側に約1.5km。道は狭くかなり急坂を